

写真部門・一枚写真の部

最優秀賞

東広島市 『広報東広島』（令和3年9月号 4ページ）



■担当課:総務部 広報戦略監

■連絡先:082-420-0919

【担当者より(掲載意図)】

「つながり」からはじまる地域共生社会を形成することを特集テーマとする中、人と人とのつながりを表現することをねらい、小規模ながらも多世代が集う場づくりに取り組む地域の行事の様子を撮影した。

都市化、あるいはコロナ禍で人と人とのふれあいが希薄化する中、こうした取り組みが生み出す笑顔や安心、朴訥さや温かさなどを表現し、地域共生に対する読者の共感を得ることを意図した。

＝講評＝

○子供たちが水鉄砲を放ったまさにその瞬間を捉えており、躍動感がある。また、背景に写るお寺や、親だけでなく自治会長さんやご住職さんやコーディネーターの方など「地域で見守るみんな」が写っており、とても素晴らしい一枚。

○ひな壇のように座る大人たちと前列の子どもたちの構図が、とても整理されているところに躍動感がある。

○水鉄砲の水滴の軌跡や子供たちの表情が楽しい瞬間を切り取っている。

○タイトルをみのシンプルな構成が写真のワイド感を出していてとてもよい。

優秀賞

北広島町 『広報きたひろしま』（令和3年12月号表紙）

■担当課:総務課情報電算係



【担当者より(掲載意図)】

特集記事「新たに紡ぐ狐ヶ崎の物語」として、刀匠三上貞直さん取材。表紙も関連して三上刀匠が鍛冶をしている写真とすることとしました。

鋼に魂を込める「折り返し鍛錬」は、凜然としていて、孤独な作業だと思います。寒く暗い鍛冶場で真っ赤な鋼を熱し、叩き、切れ目を入れて鍛着する作業を1人で4～5人回繰り返します。

今回の撮影では、11月の夜の寒さ鍛冶場の凜とした空気を表現するため、色温度を低く設定しました。構図のなかには、しめ縄や白衣の白さと重なる煤の汚れ、1本の刀を打つために鍛えた鋼(前ボケ)を入れ、刀匠の制作の歴史の想像できるようにしました。

それと対比して、鋼から散る火花と照らされて赤く浮かびあがる刀匠の情熱を持ったまなざし。この作業こそが、動と生、生と死をはらんだ日本刀の「静謐の美」の入り口であることを表現したつもりです。

光源が1本の蛍光灯と真っ赤な鋼という暗い室内での撮影でしたので、撮影には大変苦労しました。ノイズの少ない感度、ブレすぎないシャッタースピードと解放値に苦心しながら撮影した一枚です。

= 講 評 =

○刀鍛冶職人の神聖なる場所での仕事ぶり、その緊張感が、よく表現されている。

○火花が散り、刀匠の顔が赤く照らし出される瞬間を見事に捉え、静かな中にも「動」や「想い」が感じられる素晴らしい一枚。

○暗い中、写されたものの質感も浮き上がっており、歴史を感じさせている。シャッタースピードの選び方が秀逸。

○タイトルの付け方、表紙から特集への誘導など全て整っている。